



▲住民の貴重な資源・資産をまちづくりに活用を

## (旧)北小学校跡地の活用は

答弁 = 県の特別支援学校施設に



住民クラブ

小西 茂行

①施設方針で「北小学校の廃校後の施設については、社会情勢の変化や住民ニーズに対応した地域づくりの拠点、交流の場となるよう、幅広い住民や団体の参画と協働による協議組織を設けて、具体的なプログラムを策定します」と述べられていますが、施設の活用方針と管理運営のあり方について協議されている(旧)北小施設運営協議会での検討事項と町の考え方はどうか。  
②多額の町税を投資しているが、現在の有形固定資産評価額は。  
③(旧)北小学校の物件の貸付などは議会の議決はいらぬのか。

答弁 清水町長

①運営協議会での検討事項との共存が可能であれば、県の意向を受け入れ、特別

支援学校として活用。住民の意向を尊重し、本町の教育と福祉の充実めざし、記念碑、メモリアルルーム、運営協議会の活動拠点、住民交流の場の確保を県に要求し、有償、無償、決定時期も含め交渉をしている。  
②現在の固定資産評価額は土地約6億7700万円、建物は当時の建設費約7億8000万円であるが、現在の価格算定は難しい。調整区域内であり、新たな施設建設は容易でない。有償になると、補助金の適正化に関する法律による返還手続きが必要になる。  
③条例で定めているので、議決はいらぬ。

企業・商工会との関係は

①(株)フロントアは「ま」活用について、就任以来の検討、考察をどのように

答弁 清水町長  
活性化に取り組む

①(株)フロントアは「ま」は土山駅南地区の管理運営、商業活性化など、「まちおこし」「まちづくり」のために期待していたが、出資目的の資金使途がなくなつたことなどから株主総会で解散が決定した。議決事項については、町も株主として従う。  
②商工会は会員と共に町行政に協力していきたいと述べられ、町も連携しながら町の活性化に取り組む。事務所の移転は商工会役員には、まだ説明していない。



▲飲酒が指摘された防災キャンプの会場 (中央公民館)

## 防災キャンプの飲酒問題は

答弁 = 口頭で指導した



公明党

宮尾 尚子

中央公民館裏の広場で、今年も子ども防災キャンプが実施された。  
ダンボールで泊まる場所を作ったり、海水で塩を作る体験、血液に関する研修、防災センターでの避難訓練、そして、町民プールでの水難訓練と、子どもたちが非常に有意義な訓練をしたであろうことは、この訓練メニューを見ただけで容易に察しがつく。  
それだけに、子ども達が寝静まってからの、酒盛りともいえる職員による飲酒が印象に残り、帰宅後、両親に残念な報告となったと思われる。  
決算特別委員会などで、職員の飲酒についての明確な調査、報告をお願いしたなぜなら、子どもから飲酒の話聞いた保護者から非難の手紙をいただいたからです。  
お酒は保護者の差し入れ

で、非番の職員が少し飲んだといわれたが、罪を保護者になすり付けるつもりか。  
答弁 松田教育長、清水町長  
勤務中の職員はいっさい飲酒をしていない。  
保護者からの差し入れについては、公務員としてあってはならない事なので、これからは十分注意するよう、職員に注意した。  
勤務を終えた者で飲酒した職員については、喉を潤す程度の飲酒であっても、今後は場所をわきまえ、疑惑を招くような行為はしないように口頭で指導した。  
保護者への説明は、防災キャンプに対する要望や今回の飲酒の件についての意見なども含めて無記名で提出願った。  
今後は、十分に反省すべき点は反省し、充実した防災キャンプを実施してい

たい。ただ、保護者からの手紙は無記名で、そのような無責任な投書については考えられない。  
補助金の見直しは  
県の「行財政構造改革計画素案」が発表された。  
補助の減額は相当の負担になるはずで、直接住民に跳ね返ってくる。  
福祉などは切り捨てるのではなく、補助金は支給されているが実態のない団体などは、精査するべきでは。  
答弁 高橋理事  
精査はついで  
県も緩和措置や、周知期間の確保を検討するとしている。  
町も自主防災組織などへの補助は一律でなく、均等割・世帯数割で考えていく。